

2026年度 第1回 須坂市子ども・子育て会議 議事録

日 時：2026年7月24日(金) 午後2時～午後3時35分

場 所：須坂市役所東庁舎3階 第4委員会室

出席者：齊藤委員、山本委員、青木委員、○小林委員、垂澤委員、宮川委員、須山委員、横山委員、

◎塩崎委員、白川委員、吉田委員、荻原委員 ※◎会長 ○副会長

(欠席者：堀金委員)

事務局：中村教育次長、山岸子ども課長、坂口須坂保育園長、大峽子ども課長補佐兼子育て政策係長、鈴木子ども課長補佐兼児童保育所係長、荒井子ども課長補佐兼児童保育所担当係長、宮川子ども課子ども家庭支援係長、小泉学校教育課長補佐兼児童生徒支援係長、藤丸子ども課主査

資料：

【資料1】須坂市乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)について

【資料2】須坂市保育所あり方検討会議準備会について

【資料3】日常の生活実態に関するアンケート(ヤングケアラー調査)について

【資料4】井上地域児童クラブ増築工事について

会議事項：

- (1) 須坂市乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)実施園の認可及び実施園に給付するための要件の確認について【資料1 ①～③】

◆【事務局】説明(概要)

こども誰でも通園制度を実施する事業者が市へ認可申請された場合は、事業を行う事業者の信用や設備等の基準の適合状況の審査が適当であるか、また、認可後、事業者が給付を受けるために条例に基づく、給付の確認を受ける必要があります。実施予定園の2者について意見を伺うものです。

【質疑応答】

◇【委員】

豊洲保育園の開所日の時間が月曜日～金曜日の9時～15時だと、1日6時間になり、制度の上限が月10時間のため、6時間ごと使ってしまうと12時間になってしまうがどのような形での運用になるか教えてください。

◆【事務局】

1日6時間の幅の中での運用になる。その中で1時間・2時間の利用といった、必ずしも6時間すべて扱わなければいけないというものではありません。

- (2) 須坂市保育所あり方検討会議準備会について【資料2 ①～⑧】

◆【事務局】説明(概要)

少子化等による保育需要の変化と公立保育所施設の老朽化に対応するため、公立園と私立園が相互に補完し、多様なニーズに応じた質の高い保育環境を実現する持続可能な保育施設体系を構

築していくため検討会議の設置に向け、市役所内の関係部署で準備会を立ち上げました。

過去からの保育所施設整備計画の経過、保育ニーズや人口動態を踏まえ、公立園・私立園の役割・施設・定員の規模、現状における課題、今後の方向性など整理してまいります。進め方などについて、意見を伺うものです。

【質疑応答】

◇【委員】

保育環境という点で、新聞紙上で保育室の減少や保育士の希望者が少ないなど問題視されている。須坂市の実態がよくわからないが、そのようなことも含め指摘の内容からも検討する必要があるのではないか。

◆【事務局】

大変重要なことであり、地域の保育の質の強化の検討も準備会で考えていく予定。保育士の成り手不足は全国的にどこの自治体でも苦労しており、志望者も年々減少してきている状況にある。保育実習等を通じ、ここの保育園で働きたい、保育士として働きたいと思っていただけるよう現場の保育所とも相談している。

◇【委員】

0歳～2歳ごとの入園率のデータはあるのか。

◆【事務局】

0～2歳ごとの利用率は今日の資料にはない。近年、人口減少の中、核家族や共働きの家庭が増えており、0歳から預ける家庭が多くなっている。

0歳児で見ると、昨年度(2025年度)は4月時点で18人だったが、年度末では108人まで増加している。需要が非常に高いと感じている。

(3) 須坂市日常の生活実態に関するアンケート(ヤングケアラー調査)について【資料3 ①・②】

◆【事務局】説明(概要)

2024年に「子ども・若者育成支援推進法」が改正され、ヤングケアラー支援への一層強化のため、関係機関等はヤングケアラーに対する必要な支援を早期かつ円滑に行い、状況の把握や必要な支援を継続的に行うよう努める必要があることが示された。

今回支援のきっかけとするため市内小中学生を対象にアンケート調査を実施し、家庭や学校における生活実態を把握し、悩みを抱える児童生徒には必要に応じて相談など支援につなげていきたい。

今回、進め方などについて、意見を伺うものです。

【質疑応答】

◇【委員】

基本無記名での回答とのことだが、本当に支援が必要な子が、無記名で相談を希望しないとなってしまうと支援するのが難しい状況になるので、全員が記名となると制度的には無理なのか。

◆【事務局】

国の方針では任意での記名式で調査等により、把握するよう提唱されているが、児童生徒でも気づいてても相談するか否か迷いが出てくると思う。調査は毎年実施していく予定なので、調査内容も必要であれば見直しをしていきたい。相談に迷っている子に対しても、介入できる機会としてとらえ支援につながるようにしていきたい。

◇【委員】

核家族化やひとり親などで、子どもに負担がかかる状況が増えているが、子どもの気持ちからすると調査の中では、なかなか言いにくい、家庭の事情も答えづらい・分からない部分があると思う。

学校(先生)や民生児童委員さんなどと連携し家庭訪問など情報共有して複線的な実態を調査して対応につなげてほしい。

◆【事務局】

調査項目でお世話の状況など答えてもらうが、少し心配な児童生徒が把握できたところで、学校の先生など関係者とも相談しながら、支援の糸口を考えていきたい。

◇【委員】

無記名ということで、どの学校の児童生徒が答えたか把握できる仕組みはあるのか。

◆【事務局】

相談を希望する児童生徒には組・出席番号と併せ、学校名の回答欄を設けている。

◇【委員】

本人がそのタイミングで相談したいと思ってなくても、普段の学校生活での乱れや疲れなど、虐待等の問題もあると思うが、学校など関係者間で必要な情報を共有し、支援につなげていただきたい。

◇【委員】

調査項目の具体的な内容を教えてほしい。

◆【事務局】

普段あまり聞かないような項目、健康状態や生活習慣のほか、お世話を必要とする方がいるか、どんなお世話をしているか。お世話がづらいと感じるかまた、ヤングケアラーという言葉自体を知っているかなどお聞きします。

◇【委員】

家庭での状況によっても支援の内容が変わってくると思うので、状況を少しでも把握できて必要な支援につなげてもらいたい。

◇【委員】

資料のスケジュールでは、実際に回答してもらってから対応の検討まで相当の期間がかかる。本当に助けが必要な子どもが居たなら、早急に対応してもらえるのか。

◆【事務局】

回答から緊急性のあるものは、取りまとめ期間であっても学校と連絡を取りながら相談を進める。

(4) 井上地域児童クラブ増築について現状報告【資料4】

◆【事務局】説明(概要)

核家族化、共働き等で放課後に留守になる家庭が多く、放課後児童クラブの利用者数が増加している。井上地区に住宅造成が盛んな地域もあり、2024年度に井上地域公民館との複合施設化も検討したが、市の財政状況の変化により単独での増築を予定している工事の現状報告。

【質疑応答】なし

2 その他(意見交換)

◇【委員】

ファミリー・サポート・センターでは、子どもを預かってくださる提供会員さんを募集している。4回講習会があり、受講した方が会員登録できる仕組み。夕方の習い事の送迎が不足していて人手が欲しいので、身近な方で提供会員になっていただけるよう声掛けいただきたい。

◇【委員】

会議に出席の委員に報酬が支払われるが、どこから出ていて必要なものなのかお聞きしたい。

◆【事務局】

基本的に市の設置する会議・審議会など、外部の方に出席いただく会議は3,250円(半日当)という一律の額で市の予算からお支払いしている。

◇【委員】

須坂市の予算がいろいろ厳しい状況をお聞きしている、報酬を別のところ例えば子どもたちのために使うとかできたらよいと思う。

◆【事務局】

お気持ちはありがたい。それぞれ仕事などある中で出席いただいている。意見を受け止めさせていただく。

◇【委員】

暑さ対策で、ドイツではサマータイムなど国を挙げて対応しているが、小学生低学年の下校時間など一番暑い中を帰ったり、体育館などは遊べなくなる状況があるようだが暑さ対策はどうしているか。

◆【事務局】

体育館も暑さ指数等により危険な場合は使用禁止としている状況、現在、学園構想進めている中で新しい学校を整備する際は、体育館にエアコンの導入も検討していきたいと考えています。

登下校時には、日傘の活用などアイデアを出しながら対策をとっていきたいと考えます。

保育園では、保育室ではすべてエアコン完備されているが、ホールにエアコンが無い状況なので、どうしていくか検討をしています。

◇【委員】

こども誰でも通園制度について、この4月から認可を受けて実施しているが、利用されている保護者からは非常に子どもの育ちが定期的に見える良い制度だと概ね好評ですが、制度の欠点として国で定める上限が10時間までしか利用ができない、10時間以上は自治体で費用を持っているところもあるようだが、それより問題なのが満3歳になると利用ができなくなることでして、早生まれの子は長く利用できるが、生まれた月で幅が出てきてしまうのがとても問題だと感じている。機会があれば議会や国の方へご提言をお願いしたい。

◆【事務局】

満3歳までということで、利用できる期間に差があるというご意見はお聞きしている。県の市長会などで国への要望する機会があるので、要望も検討していきます。

◇【委員】

フランスで16歳未満は SNS の制限など新聞で見たが、日本では文部科学省で SNS 制限は一律に課さないという方針で、自治体によっては条例で利用を1日2時間以内など定めている所もあるようだが、須坂市でも子どもたちの SNS 利用に関し制限など検討していくことが必要だと感じる。

◆【事務局】

外国では、子どもの SNS 利用に制限をする流れになってきているが、国内では事業者自体が厳密に何歳までの利用などの制限がある、須坂市ではネットや SNS 利用などについて研修会を開催など子どもにも利用について認識する機会を設けているが、条例等で利用時間の制限まで踏み込んでよいかということも含め考えていかないといけない。

◇【委員】

保育園のホールにエアコン設置について、早めに導入してもらいたい。子どもたちもそうだが、保育士も成り手不足のため、職場環境の整備も必要だと思う。

水筒持参でなく、水道水で補給しているが夏場だと温かい水にならないか、水筒持参は検討されないのか。

◆【事務局】

ここ数年の暑さが尋常でないと感じている。園の中でも日差し除け設置など対策しているがエアコン設置も財政部門と相談していきたい。水道水は通年で美味しい水が出る。衛生面の問題もあるが、水筒をかけていて転んでケガなどの心配もあるので、水筒の持参は今後検討していきたい。

◇【委員】

小学校のプールについて、長野市では民間委託が始まっていて屋内施設が利用できる。屋外では暑さでプールサイドも歩けず水も温い状態で利用ができなくなってしまうので、須坂市では民間委託で屋内施設の利用は検討していないのか。

◆【事務局】

できるだけ学校にプールを整備したいという思いはあるが、例えば豊丘小学校では児童数が減少する中で、プール改修に係る費用と民間施設利用の費用を比較すると民間施設の利用の方が安く、専門的なコーチから授業の質も上がるという考えから、民間の屋内プールを利用しています。

全国的にも屋外プールに屋根を付けたり、民間にという流れがありますが、今後も児童数や改修コストなど勘案しながら、学園構想の中でも検討をすすめてまいります。

◇【委員】

会議の中で、知らないことばかりで大変勉強になった。若いお母さんなどもっと出席いただいた方が子どものために良いと思った。

◇【委員】

こども誰でも通園制度の利用状況は。

◆【事務局】

実際利用までの流れとして、事前に利用者登録をして、面談をしてからになる。登録者は27名あり、そのうち利用された方は7名、利用時間は17時間になります。利用拡大に向け周知していきたい。

◇【委員】

全国で見るとプール授業自体やめてしまう学校も出てきているようだが、何とか続けてほしい。

◆【事務局】

設備を維持できない学校では座学に変えてきているところもある。須坂市では、水泳の技術を子どもに付けさせたいという思いがありますので、止めてしまう考えはない。

◇【委員】

小学校のプール授業が暑さでなくなってしまうことがある。プールの授業は夏休み前までなので限られた時間が1つでも無くなると子どもも残念だと思う。屋根を付けるのもいきなり無理だと思うが対策は何かないのか。

◆【事務局】

近年では、プール授業ができない日が増えている。校長会等でも相談しながら対策を検討したい。